



精神の生命を考える

ルビ・インスティテュート



Book 1

精神の生命を考える

Reflections on the Life of the Spirit

Ruhi Institute

Version 4.1.4.PE

ブック
Book1

ルヒ・インスティテュート

教材のシリーズ

ルヒ・インスティテュートは、地域の共同体に奉仕する若者や成人の能力を系統的に高めるため、継続的な幹コースとして下記の一連の教材を制作しました。ルヒ・インスティテュートはまた、幹コースのひとつである子どもクラスの担当者(先生)のトレーニングのための Book3、ジュニアユース・グループの担当者(アニメーター)の育成のための Book5 から、枝としてで一連のコースを開発しています。それらもまた、下のリストに示します。この分野での経験が蓄積されていくにつれ、下記のリストにある一連のコースはさらに変化する可能性があり、いま開発中のカリキュラムがより多くの人に提供できる形になれば、随時新しい教材がリストに追加される予定です。

- Book 1 精神の生命を考える
- Book 2 奉仕に立ち上がろう
- Book 3 子どもクラスを担当するにあたって 1年生向け
2年生向け(枝コース)、
3年生向け(枝コース)、
4年生向け(枝コース)
- Book 4 一對の神の顕示者
- Book 5 ジュニア・ユースの力を放出させる
最初の推進力：Book5 最初の枝コース
広がる輪：Book5 2番目の枝コース
- Book 6 教えを広める
- Book 7 奉仕の道を共に歩もう
- Book 8 バハオラの聖約
- Book 9 歴史的展望を得る
- Book 10 活気に満ちた共同体建設
- Book 11 物質的手段
- Book 12 家族と共同体
- Book 13 社会的活動との関わり
- Book 14 (間もなく発表)

Copyright © 1998, 2016, 2020 by the Ruhi Foundation, Colombia
All rights reserved. Edition 4.1.4.PE published in 2022
Printed in Japan

Originally published in Spanish as *Reflexiones sobre la vida del espíritu*
Copyright © 1987, 1995, 2008, 2020 by the Ruhi Foundation, Colombia
ISBN 978-958-59880-3-3

Permission for a limited printing of this book in Japanese has been granted by the Ruhi Institute.

Ruhi Institute
Cali, Colombia
Email: instituto@ruhi.org
Website: www.ruhi.org

目次

チューターのためのいくつかの考察	5
第1章 バハイの書物を理解するために	9
第2章 祈り	21
第3章 生と死	35

チューターのためのいくつかの考察

ここ数年の間で、ルビ・インスティテュートが提供する、幹の一連のコースの最初の教材「精神の生命を考える」を学習した地域の数が、世界中で増えています。多くの場合、この教材はグループで読み合い、話し合われます。そのグループは、定期的に集う学習サークル、集中的な学習のために設定されたキャンペーンへの参加、あるいは学校の休暇中に催されるキャンプへの参加などによって作られます。いずれにしても、グループの中の一人がチューターを担当します。チューターと他のメンバーたちとは、教師 対 生徒という関係ではなく、全員が各自学びを追求するプロセスに意識的に携わります。しかし、チューターは話し合いに無関心な、消極的な進行役ではありません。自分がチューターするのに必要なコースを、一連のコースの中で完了し、そこで勧められている奉仕を経験した人が、グループの皆が学習中のコースの目的を果たすための援助をすることができます。この序文に述べられている概念を時々見直すことは、Book1 のチューターをする人たちの助けになるでしょう。

世界中の参加者たちは、様々な背景をもってこの最初のインスティテュート・コースに参加します。すでにバハイ共同体のメンバーで、自分たちが受け入れた大業に奉仕する能力を高めたいと願う人もいます。また、ある人たちは、このコースを宗教としてバハイ信教について調べる第一歩とみなすかもしれません。他にも、バハイの考えに関心を持ち、この共同体の目的や活動を知りたいという人もいます。それに、多くの若者が、バハイ共同体の進めている特定のプログラムを通して社会に奉仕する能力を高める最初のステップとして、このコースにどんどん入ってきています。

ルビ・インスティテュートのコースは人類への奉仕の道をたどるものであり、この道を私たちは各自のペースで歩み、互いに助け、助けられます。この道を進むことは、自分の精神的・知的成長と、社会変革への貢献という二重の道義的目的の追求を意味します。この道を進むには、理解と知識、精神的な資質と称賛に値する態度、多くの能力と技術が必要であり、またこの道を進むことでそれらを身に付けていきます。インスティテュートの教材が活用する知識の源の一つは、バハイ信教の教えであり、もう一つは物質的、精神的文明の促進について世界のバハイ共同体に蓄積されてきた経験です。このインスティテュートは、私たちがなり得る存在について、そして、私たちが建設し得る文明についてのバハオラのビジョンによって啓発されています。参加者全員が、その背景に関係なく、教材のすべての章で率直に述べられているこのビジョンを受け入れることに前向きであるという前提で出発します。

信条や主義・主張が支持者を勝ち取るためにあらゆる手段を使おうとする世の中ですから、この信教になじみのない人たちは、ルビ・インスティテュートの意図について、特に、「私の宗教を変えるよう求められないか」とか「宗教に入るよう迫られるんじゃないか」といったような素朴な疑問を持つかもしれません。そのような疑問は、上に述べた一連のコースの目的を説明する機会をチューターに与えてくれます。友人が共同体に加入してくれたら嬉しいとバハイが思うのは自然なことです。このような場合、チューターは、バハオラの教えは改宗を勧めることを禁じているという説明を加えることもできます。インスティテュート・コースによって開かれた奉仕の道を歩むことは、バハオラの教えについての理解の継続的な深まりを必要とします。この教材はその教えを明確に説明しようとはしますが、受容と信仰は各人が自由に、誰にも強制されることなく考える事柄です。

この一連のコースに使われる教材の中心となるものは真の理解とは何かという問いです。ですから、この本の最初の章は理解というテーマから始まります。聖なる書を読むということは、人が一生で見る何千ものページを読むことと同じではありません。「バハイの書物を理解するために」という章は、毎日聖なる書の句を読み、その意味について熟考する習慣を育てようとするものです。この習慣は参加者が奉仕の道に入った時に大きな助けとなります。チューターはこの学習で参加者を導くため、理解という主題を十分に考える必要があります。

バハイの書物は深遠な精神的真理を含みます。私たちはそれらの無限の意味について理解を深めるよう努めますが、決して完全に理解することはできないことも知っています。文章を何か初めて読む時、私たちはその文章を言葉通りに理解します。この第1章のセクション1はその直接的な意味を出発点とします。参加者は、「世の改善は、清らかで立派な行いと、称賛に値する礼儀にかなった行動を通して達成できる」という引用文を読んだ後、「世の改善はどのようにして達成されますか？」と簡単に問われます。この種の質問や練習のほとんどは、あまりに単純に見えるかもしれませんが、しかし、長年の経験で、このインスティテュートのやり方は効果的であるということが証明されています。句に含まれるいくつもの真理を見いだすことを焦って、その明白な意味を見逃すことがないようにする必要があります。理解のこの第一段階へ注意を払うことはまた、グループでの協議にも欠かせません。個人的な意見が天の英知によって照らされるようになると思考の一致が容易になります。

ここで注意すべき点は、その句の直接的な意味を理解しようとするとき、特定の言葉について文脈から切り離して長々と話し合っても、ほとんどの場合、助けにはならないということです。時にはグループは言葉について辞書を調べる必要があるかもしれませんが、文章や文節全体から言葉の意味を推測する方法を学ぶ方がもっと効果的でしょう。

直接的な意味の範囲を超え、理解を広げるために、それらの考えが具体的にどのように表わされるかを示す例が役に立ちます。そのために必要なのは単純な練習問題です。例えば、セクション2で、参加者は今読んだ句に照らし合わせて、ある特定の資質が称賛に値するかどうかを判断します。セクション4にある同様の練習問題で参加者は美德を5つ挙げ、次いでそれらの美德は、その句で「すべての美德の基礎」だと言われている誠実さが欠けていても取得できるか判断するよう促されます。

第1章では、この目的を達成するために、参加者はその含意^{がんい}を考え、さらに理解を深めることが求められます。セクション2で、参加者は「この世に善い人間は非常に少ないので、その人たちの行動は全く影響ない」という主張は正しいかどうか決めるよう、言われます。これは単に意見を引き出すというものではありません。チューターは時間をとって、参加者が出した答えの理由を尋ねる必要があります。グループは、その主張はセクション1の最初の引用文に反するので間違いであると結論するでしょう。バハイは自分の罪を他の人に告白して良いかという質問もまた、この種の練習問題の例です。この質問は、教えでは罪から赦免^{しやめん}されるための告白を禁じている^{しき}ということを示唆するものです。それに関する教えは、ここで学習した句ではつきりと述べられてはいませんが、「決算^{ひごと}の日の来るまでは、日毎に汝自らを反省せよ」という聖句の意味の探求によって引き出すことができます。

この章の練習問題は決して、そこで学んでいる句に含まれるすべての意味を理解しようとするためのものではありません。チューターが考えなければならない一つの課題は、それぞれの練習問題をどのくらい話し合うかということです。直接関連のないたくさん概念を紹介して、長々と話し合うと教材の持つ効果が薄れるということを心に留めておくべきです。各グループは、進歩の適切なテンポを築く必要があります。自分たちの能力に応じて着実に進んでいると参加者自身がはっきり感じとれるようにしなければなりません。しかし、チューターは、練習問題についての思慮深い分析なしに、セクションを機械的に、表面的にやっつけられないよう配慮すべきです。単に答えを書き込むだけで進んだグループは、決して永続する結果を達成したことはありません。

最後にチューターの責任について述べます。チューターはグループの全メンバーがこの教材の意図する学びの過程に積極的に参加するのを助けます。発言を強いることなく参加者に参加を求めることは難しいときもあります。「あなたはこれについてどう思いますか？」というような質問でこの難題が解決できることはほとんどないということを初めから認識しておくべきです。このような質問に対する話し合いは、単に意見を交わすだけの場となり、理解を深める役には立ちません。

この教材の第2章のテーマは、第1章と同じく精神的生活に欠かせない習慣に関することであり、特に毎日祈ることに関するものです。第2章の最初のセクションでは「奉仕の道」の概念を明確にしておき、それはこの道を歩むために二重の目的を持たねばならないということです。参加者は、この目的の性質について洞察を与えてくれる一連の引用文をまずここで探求します。この二重の目的については、もっと先のコースで詳述されます。

この主題を背景に、第2章は祈りの意味についての探求を取り上げています。上の説明で述べたのと同じアプローチを用います。質問や練習問題は、学習した聖典の文節の意味について理解を深めるために用意されています。この章を進むとき、チューターは、過去の解釈や習慣に根ざした考えを考慮して、友らの疑問を解消する必要があるかもしれません。ある伝統では、儀式や慣例が心や魂の状態の重要性を次第に曇らせてしまい、そのため多くの人は祈りの必要性を無視しますが、祈りは人間の魂にとって、食べ物^{くも}が身体に栄養を与えるのと同じように重要です。

ですから、第2章は何よりもまず、参加者の心の中に神と対話し、神に向かって成長するという望みがあるという気づきを促します。他に祈りの状態に入るとはどういう意味か、私たちが祈るときの心と思考の状態、一人または集まりで祈るときの環境などが取り上げられています。参加者は、実際に共同の礼拝で生み出される力について考えてから、祈りの集いの主催について検討するよう促されます。

この教材の第3章の学習「生と死」は、奉仕の道を歩むことへの決意を強め、一層、深遠な意味を考えることを願ったものです。この世での奉仕は、魂が地上での存在を超えて神の世界を進み続けるという、生命の道筋全体の中で理解すべきです。技術的な訓練とは対照的に、教育の過程では、参加者が自分たちのしていることの意味や意義について、ますます意識するようになります。そのような意識が高まって初めて、自身の学びの活発で責任ある「主役」としての自覚が生まれるということがこれまでの経験でわかってきました。

第3章の各セクションは、バハイの書からとったいくつかの引用文で始まり、次に練習問題に入ります。この章に引用されている文の言葉遣いは、前の二つの章のものよりも難しいです。グループはその難しい言葉にこだわる必要はありません。チューターは、皆が各セクションで扱っている中心的な概念を把握しているかどうか確かめます。それこそがこの練習問題によって引き出したいことだからです。

主題の性質上、具体的な例を含む練習問題はほとんどありません。多くは概念的なレベルでの作業です。練習で提起された質問にはとっさに、あるいは明確に答えることができないものもあるでしょう。それらの問題は、主題についての意識を高めるために導入されているので、参加者がそのような質問について考えるだけで学習の目的は果たされます。

魂と身体は共にこの世で人間を構成しますが、最初の数セクションは、この魂と身体との関係に焦点を当てています。これらのセクションで示されている中心的な概念は、魂は物理的な存在ではないということです。魂と身体との結合は鏡に映る光に例えることができます。鏡の面を覆う塵^{ちり}も、鏡の最終的な破壊も、光自体の輝きにはなんら影響を及ぼしません。死は身体と魂の結合が壊れる時に起こる状態の変化でしかなく、その後、魂は創造主に向かって永遠に進み続けます。

第3章は続けて、神を知り、神の御前に達するという生命の目的について探求します。ここでの話し合いは、2つの主要なテーマに関するものについて展開されます。最初はこの世での私たちの人生の目的、二番目は死後の魂の旅についてです。魂は神の徴^{しるし}であり、神の諸々の名や属性の全てを反映させることができます。しかし、人間に備わっている可能性は潜在的なものです。それは人類を導くために時代毎^{ごと}に送られる、聖なる御方・神の顕示者たちの援助によってのみ発達させることができます。私たちの内に隠されている財宝は、それらの顕示者から授けられる精神的な教育を通して明らかにされるのです。

死後の魂の旅について参加者が熟考するために、各セクションで次のテーマが取り上げられます。神に忠実である者らは真の幸福に達するという。誰も自分の終わりを知ることはできない、従って、私たちは互いに許し合い、他より自分が優^{すぐ}れていると考えてはならないということ。次の世ではこの世と同じように、魂は進化し続け、この世で育んだ精神的な機能は、次の世で私たちの助けになるであろうということ。私たちは愛した人たちをあゝ世で認識する、この世での生活を覚えている、清らかで聖別された魂たちとの交わりを喜ぶであろうということです。

第3章は、バハオラの聖典からの引用文で終わります。それは、私たちには来世での恩恵が約束されているということを教え、そしてこの世の変化や変遷^{へんせん}で私たちが悲しまないよう励ますものです。参加者は自分たちが学んだことが、自分の人生にどう影響するかを考えるように促されます。



第1章

バハイの書物を理解するために

目的: 聖典からの文節を毎日読み、それらの意味について深く考える習慣を身につける。

セクション 1

この章は、あなたが毎日聖典の文節を読み、それらの意味について深く考える習慣を身につけることを助けます。聖典から抜粋した一節を読み、その引用文を使って質問に答える練習から始めます。この練習は単純ですが、文章の意味について熟考し、それらを暗記するのに役立つでしょう。

よ かいぜん きよ りっぱ おこな しょうさん あたい れいぎ こうどう とお たっせい
世の改善は、清らかで立派な行いと、称賛に値する礼儀にかなった行動を通して達成できる。¹

1. 世の改善はどのようにして達成できますか。 _____

ひとびと げんどう いっちひと ひとびと みち あゆ ちゅうい
おお、バハの人々よ！言動の一致しない人々の道を歩むことのないよう注意せよ。²

2. 私たちは、どのような人々の道を歩むべきではないのでしょうか。 _____

じつざい こ けっさん ひ く ひごと なんじみずか ほんせい
おお実在の子よ！決算の日の来るまでは、日毎に汝自らを反省せよ。³

3. 決算の日の来るまで、私たちは何をすべきですか。 _____

きょうだい ことば おこな なんじ かざ
おお兄弟たちよ！言葉にあらずして、行いをもって汝の飾りとせよ。⁴

4. 私たちの真の飾りは何ですか。 _____

きよ ことば きよ よ おこな せい えいこう てんごく のぼ
聖き言葉と清らかなる善き行いは、聖なる栄光の天国に昇る。⁵

5. 聖き言葉と、清らかなる善き行いは何をしますか。 _____

セクション 2

以下はセクション 1 で読んだ引用文に関する練習問題です。これらはあなたのグループが引用文の意味についてさらに深く考える助けになります。すべての問題に時間をかけた話し合いが必要なわけではありませんが、機械的に終わらせることのないよう気をつけてください。問題が難しい場合は、十分な探求ができるようチューターが手伝います。

1. 「称賛に値する」ということは「ほめるにふさわしい」ということです。次の行いは「称賛に値する」でしょうか。

- _____ 一所懸命、働く
- _____ 人を敬う
- _____ 学問に励む
- _____ 嘘をつく
- _____ 怠ける
- _____ 人のために尽くす

2. 「決算の日の来るまで」とはどういう意味でしょうか。_____

3. 次の説明のうちで正しいのはどれですか。

- _____ この世に善い人間は非常に少ないので、その人たちの行動は全く影響がない。
- _____ 物事は、他の人たちの意見と一致しているときは正しい。
- _____ 物事は、神の教えと一致しているときは正しい。

4. 次のうち清らかで立派な行いはどれですか。

- _____ 子どもたちに教えたり、世話をしたりする
- _____ 盗みをはたらく
- _____ 人の進歩のために祈る
- _____ トラブルから逃れるために小さな嘘をつく
- _____ 人を援助して報酬を期待する

5. 次の状況で言動が一致しないのはどれですか。

- _____ 私たちは皆仲良くすべきと常に言っている人が、争いを招くような行いをする
- _____ 純潔な生き方をたたえる人が、婚外の性的関係を持つ
- _____ 時々飲酒をしているにもかかわらず、飲酒を禁じている宗教の信者であると公言する
- _____ 男女平等に賛成する雇い主が、男性同様の仕事をする女性に男性より低い給金を払う

め きよ て ちゅうじつ した せいじつ こころ けいはつ
目を清らかにし、手を忠実にし、舌を誠実にし、心を啓発させよ。⁹

5. 目はどうあるべきですか。 _____ 手は? _____

舌は? _____ 心は? _____

かみ まくや す ふめつ えいこう ざ ひとびと み くうふく ぜつめいすんぜん かれ て
神の幕屋に住まい、不滅の栄光の座にある人々を見よ。空腹のために絶命寸前であっても、彼らは手
の りんじん ざいさん ふほう うば けつ りんじん いや かし そんざい
を伸ばし隣人の財産を不法に奪うことは決してしない。その隣人がいかに卑しく、価値のない存在であ
ったとしても。¹⁰

6. 私たちは空腹のために絶命寸前であっても、決して何をしないのですか。 _____

セクション 4

セクション2で気づいたかもしれませんが、この章のいくつかの質問は明確な答えを求めています。答えに疑問がある時、チューターは、あなたのグループが考えの一致にたどりつけるよう手助けします。その他の練習問題では、話し合うこと自体に意味があり、特定の答えを求めているわけではありません。このセクションの練習問題3は前者、6は後者に該当します。

1. 誠実は全ての美德の基礎です。ここで美德を5つ述べましょう。 _____

2. 誠実でなくてもこれらの美德を得られますか。 _____

3. 次の文は正しいですか。

_____ 人はたとえ嘘をついたとしても、公正でありうる。

_____ 盗みをする人は忠実な手を持っている。

_____ 忠実な手は無断で他人の物に触れない。

_____ ポルノのような本や雑誌を読むことは、清らかな目を持ちなさいというバハオラの忠言に反する。

_____ 誠実とは、嘘をつかないということ。

_____ 正直は魂の飾りである。

_____ 誠実でない人は、精神的に進歩することが出来る。

_____ ときどき嘘をついても構わない。

- _____ 空腹なら盗みをしてでも神に受け入れられる。
- _____ 後で返そうと思って、無断で人の物を借用するのは盗みではない。
- _____ 誠実に行動し、公平で正直であれば、私たちの心は啓発される。
- _____ ちょっとしたごまかしがなければ商売で成功することはできない。

4. 自分自身に嘘をつくことは可能ですか。_____
5. 嘘をつくことによって私たちは何を失うでしょうか。_____
6. 皆が正直で誠実であれば世の中はどのようなでしょうか。_____

セクション 5

以下の引用文を読み、それらを暗記してみましょう。聖典からの引用文を暗記することはとても役に立ちます。もちろん誰もが引用文を容易に暗記できるというわけではありませんが、暗記する努力をしてみることは、その聖句が含む概念を心に刻み、原文に近い言葉で表現できるようになる助けとなります。

しんせつ した ひとびと こころ ひ つ じしゃく たましい かて ことば い み こころ さず
 親切な舌は人々の心を引き付ける磁石である。それは 魂 の糧であり、言葉に意味という衣を授けるも
 えいち りかいりよく ひかり いずみ
 のである。それは英知と理解力の 光 の 泉 である。¹¹

1. 親切な舌は何にたとえられますか。_____
2. 親切な舌は言葉にどのように影響しますか。_____

しゅ あい ひとびと せい しゅうきょうせい ふ わ あらそ ぜったい ゆる
 おお主から愛される人々よ！この聖なる宗教制においては、不和と争いは絶対に許されない。
 こうげき もの かみ おんちよう うしな
 攻撃するすべての者は神の恩寵を失う。¹²

2. 上の引用文によると、この聖なる宗教制においては、何が許されていないですか。_____
4. 攻撃する者はどうなりますか。_____

ひ かみ あい ひとびと あいだ ふ わ あらそ ろんそう りはん れいたん たいぎょう きがい
この日において、神に愛されし人々の間の不和、争い、論争、離反、冷淡ほどこの大業に危害を
くわ ほか
加えるものは他にない。¹³

5. この大業に最大の危害を加えるものは何ですか。_____

ことば ゆうじょう しめ まんぞく みち で あ ひとすべ たい
言葉だけで友情を示すことに満足してはなりません。あなたの道で出会う人全てに対して、あなたの
こころ やさ あいじょう も た
心を優しい愛情で燃え立たせなさい。¹⁴

6. どのような友情に満足すべきでないのでしょうか。_____

7. 心に何を燃え立たせるべきですか。_____

たたか おも わ まさ へいわ おも ほんたい にく おも
戦いへの思いが湧いたときは、それに勝る平和への思いで反対しなさい。憎しみの思いは、より
きよりよく あい おも ほろ
強力な愛の思いで滅ぼさなければなりません。¹⁵

8. 戦いへの思いは何で反対しますか。_____

9. 憎しみは何で滅ぼしますか。_____

セクション 6

セクション 5 の引用文を念頭に、次の練習をしましょう。

1. 親切な舌はどのような意味で「磁石」に似ていますか。_____

2. 次の発言は親切な舌から出たものでしょうか。

- _____ 邪魔しないで！
- _____ これでもわからないのか。
- _____ お待ちいただけますか。
- _____ なんてひどい子どもたちだ。
- _____ ご親切に、どうもありがとうございます。
- _____ 今そんな暇はないよ、忙しいんだ。

3. 次の状況のうちどれが不和や争いに当てはまりますか。

- _____ 二人の人がある課題について協議のときそれぞれ違う意見を述べる。
- _____ 二人の人が協議の時、互いに腹を立てて言い争う。
- _____ 二人の人は口をきかない状態で、週一の祈りの集まりに参加するのを止める
- _____ プロジェクト・チームのメンバーが、互いに相手が任務を果たしていないと文句ばかり言う。

4. 次の場面で離反を示しているのはどれですか。

- _____ 友人が通りで出会ったが、互いに無視する。
- _____ ある人が祈りの集まりにやって来た。みんながその人を暖かく迎えた。
- _____ グループの二人のメンバーは互いに礼儀正しいが、一緒にプロジェクトに参加するのを嫌がる。

5. 次のことは正しいですか。

- _____ 他の人について思っていることをはっきり述べるべきだ。相手が傷ついても構わない。
- _____ 争いを避けるためなら、嘘をついてもよい。
- _____ 不和は愛と親切で乗り越えられる。
- _____ 愛情を込めた言葉は、より影響力がある。
- _____ 売られた喧嘩は買っても良い。
- _____ 自分の体調が悪いときや、悲しい時は、辛辣な言い方をしても良い。
- _____ 人の過ちをあざ笑うことは不親切である。
- _____ 友らの中にギクシャクした感情があるときは、互いに近づくよう特別な努力をすべきである。
- _____ 友らの中にギクシャクした感情があるときは、互いに相手が近づく努力をするまで待つべき。

セクション 7

以下の引用文を学習し、それらを暗記してみましょう。

かげぐち ごころ ひ け たましい せいめい ほろ
陰口は心の灯を消し、魂の生命を滅ぼすものである…¹⁶

なんじしん つみびと あいだ たにん つみ ささや
汝自身罪人である間は、他人の罪を囁くな。¹⁷

あ かた なんじ かた たにん あやま こちよう かた
悪しきことを語るな。さればそれが汝に語られることもなし。他人の過ちを誇張して語るな。

なんじみずか あやま おお おも
されば汝自らの過ちも大げさに思われず。¹⁸

じつざい こ なんじ じしん けってん わす た ひとびと けってん あ きゆう う
おお実在の子よ！いかにして汝、自身の欠点を忘れ、他の人々の欠点を挙ぐるに急なるを得るや。¹⁹

1. 陰口はそれをする本人にどのような影響を与えるでしょうか。_____
2. 他人の罪を囁く前に、なにを考えるべきですか。_____
3. 他人の過ちを誇張して語れば、自分に何が起こりますか。_____
4. 他人の欠点を考えてしまうとき、何を思い出すべきですか。_____

セクション 8

セクション 7 の引用文を念頭に、次の練習をしましょう。

1. 他人の欠点に気を取られる人の魂の進歩はどうなりますか。_____
2. 陰口は共同体にどのような影響を及ぼしますか。_____
3. 友達が他人の欠点を話し始めたらどうしますか。_____
4. 次の文は正しいですか。
_____ ある人の実際の過ちについて話すのは陰口ではない。
_____ ある人の長所と欠点を同時に話すときは、陰口にならない。
_____ 陰口は世間で習慣になっているが、それを避けるために鍛錬すべきである。
_____ 聞き手が秘密を守ると約束すれば、陰口をしても構わない。
_____ 陰口は和合の最大の敵の一つである。
_____ 常に他人のことを話す癖がつくと、陰口に陥る危険性が大きくなる。

- _____ 地方精神行政会で、委員会メンバーを決めるために人の能力について話し合うのは陰口だ。
- _____ 陰口を言いたくなったら、自分自身の欠点を思い出すとよい。
- _____ ある人が信教を傷つけるような行動をしている場合、共同体メンバーと話し合う。
- _____ ある人が信教を傷つけるような行動をしている場合、私たちはただ地方精神行政会にだけ知らせる。
- _____ 夫婦間に秘密があってはならないので、夫婦間で他人の欠点について話すことは悪いことではない。

セクション 9

冒頭で述べたようにこの章は、聖典からの文節を毎日読み、それらの意味について深く考える習慣が身につくよう助けます。神の聖句を毎朝毎夕読むことはバハオラの教えであり、それは私たちの精神的な発展につながります。以下の引用文は、この義務を果たすことによって受け取る恵みを教えてくれます。暗記してみましょう。

ことば たいかい み なんじ ひみつ と ふか ところ かく ちえ
わが言葉の大海に身をしずめよ。汝らはその秘密を解き、深い所に隠されている知恵の
しんじゆ のこ はっけん
真珠を残らず発見できるように。²⁰

この章を終えるにあたり、バハオラの書の一つを入手して、それを毎日読んでみることを勧めます。最初に手に取る書として、「かくされたる言葉」は最適です。

参照文献

1. バハオラ、『神の正義の出現』（ショーギ・エフェンディ著、1984アメリカ版）にて引用
2. 同上
3. バハオラ、『かくされたる言葉』 アラビア編 31
4. 同上 ペルシャ編 5
5. 同上 ペルシャ編 69
6. アブドル・バハ、『神の正義の出現』（ショーギ・エフェンディ著、1984アメリカ版）にて引用
7. 同上
8. バハオラ、『落穂集』 136
9. バハオラ、『バハオラの手簡：ケタベ・アグダス後に啓示』
10. バハオラ、『落穂集』 137
11. 同上、132
12. アブドル・バハ、『アブドル・バハの遺訓』
13. バハオラ、『落穂集』 5
14. アブドル・バハ、『パリ講話集』
15. 同上
16. バハオラ、『落穂集』 125
17. バハオラ、『かくされたる言葉』 アラビア編 27
18. 同上 ペルシャ編 44
19. 同上 アラビア編 26
20. バハオラ、『落穂集』 70



第2章

祈り

目的： 祈りの意義について深く考え、
日々祈る習慣を身につける

セクション 1

ルビ・インスティテュートのコースは参加者たちが奉仕の道を歩むのを手伝うことを目指しています。私たちは二重の目的意識に動機づけられてこの道を歩みます。その目的は知的、精神的に成長することと、社会の変革に貢献することです。目的のこれら二つの側面は互いに切り離せないものです。バハオラは一つの句で次のように述べ私たちを促しておられます。

わたくしごと ところ つね じんるい はんえい かいふく ひとびと ところ たましい きよ む
私事におぼれるな。心を常に人類の繁栄の回復と、人々の心と魂を聖らかにするものに向けよ。¹

またバハオラは別の句で明白にしておられます。

し うんめい にんげん む せんざい せかい すす よ かいぜん はたら
死すべき運命にある人間が、まったくの無から存在の世界に進んだのは、世の改善のために働き、
わごう ちょうわ く
和合と調和のうちに暮らすためである。²

バハオラは私たちの内面の状態についてこう述べられました。

じゆんすい ところ かがみ しんじつ たいよう なか かがや えいえん あさ あらわ あい かみいがい
純粋な心は鏡にたとえられる。真実の太陽がその中に輝き、永遠の朝が現れるよう、愛と、神以外
のすべてのものからの断絶とでそれを磨け。³

アブドル・バハは述べておられます。

かみ たまもの う と ところ きよ どうき じゆんすい
神の賜物を受け取るためには、心は清く、動機は純粋でなければなりません。⁴

1. 私たちの考えと関心を何に向けるべきでしょうか。 _____

2. 私たちが全くの無から存在の世界に進み出た目的は何ですか。 _____

3. 何によって心の鏡を磨くべきですか。 _____

4. 神の賜物を受け取るために心はどのような状態であるべきでしょう。 _____

5. 以下のうちで正しい考えはありますか。

- ___ まず自分のことを整え、その後で他の人を助けるべきだ。
- ___ 他の人を助けてばかりいると、自分の目標を見失うことになる。
- ___ 自分にとって一番の友は自分である。
- ___ 何より大切なのは、自分を幸せにするものを見つけることだ。
- ___ 夢を追いかけよ、それが幸せに導く。
- ___ 他人に害を及ぼさない限り、何をしてもかまわない。
- ___ 少しでも良いことをしているのなら、動機が利己的でも問題ない。

セクション 2

二重の目的の中心にあるのは、私たちは皆、高貴に創られているという信念です。バハオラは述べておられます。

おしんれい心こ霊の子よ！われなんじ汝ゆたを豊つくかに創なにれるに、何なんじみずかゆえまず汝けだか自ら貧なんじしくするや。気つく高くわれなんじ汝つくを創なんじれるに、何なんじみずかゆえいや汝ちしき自ら卑せいしくするや。知なんじ識しょうの精なんじ華なもて、われなんじ汝なを生なんじぜしに、汝なんじ何なんじゆえにわれより
他たの者ものに教きょう化かを求もとむるや。愛あいの粘ねん土どもてわれなんじ汝つくを創なんじりしに、汝なんじ何なんじゆえ他たのものぼつとうに没なんじ頭とうするや。汝なんじ
の眼めをなんじみずか汝む自らなんじになんじ向けよ。さればいこう汝かが、汝ちからづよのうちに威じそん光みいだに輝みき力りき強ちかく自じ存ぞんしつつあるわれを見出みさ
ん。⁵

次の文を完成させると、上の言葉を熟考する助けになるでしょう。

おお心霊の子よ！われ汝を_____創れるに、何ゆえ汝自ら_____するや。_____われ汝を
_____, 何ゆえ汝自ら_____するや。_____の_____もて、われ汝を生ぜしに、汝何ゆえに
_____より他の者に_____を求むるや。_____の粘土もて、われ汝を_____に、汝何ゆえ
_____や。汝の_____を_____に向けよ。されば汝、汝のうちに_____
しつ々ある_____を見出さん。

魂の気高さを忠実に表現するためには、私たちの存在の源泉である御方げんせんに向い、啓発を求める必要があります。これを達成するための力強い方法の一つは、祈りです。バハイ信教の守護者ショーギ・エフェンディは、祈りの主な目的は、「精神的美德と能力の修得を通しての個人と社会の発展である。最初に養われるべきは人の魂です。そして、この精神的栄養を最もよく提供できるものは祈りです」⁶と述べています。

セクション 3

神は全知にしてすべてに賢き御方です。神は私たちを創り、私たちの心の内を知り、私たちにとって何が最も良いことかをご存知です。神は私たちの祈りなど必要とされてはなりません。にもかかわらず、私たちはなぜ祈るのでしょうか。アブドル・バハは次のように述べておられます。

さいこう いの かみ あい いの かみ じごく おそ おんけい てんごく のぞ
最高の祈りとは、ただ神への愛ゆえの祈りです。神や地獄への恐れ、または恩恵や天国への望
みのために祈るのではありません。にんげん こい お あいて な くち
人間は恋に落ちると、相手の名を口にしないではできません。ましてや神を愛するようになったとき、その御名を口にしないではどれほど困難なことで
せん。ましてや神を愛するようになったとき、その御名を口にしないではどれほど困難なことで
しょう…。せいしんでき にんげん かみ きおく いがい よろこ
精神的な人間にとって神を記憶すること以外に喜びはないのです。⁷

また、アブドル・バハは、ある質問に次のようにお答えになりました。

ひと とも あい い どうぜん とも じぶん
ある人が友を愛するとき、そのことを言いたくなるのは当然のことではないでしょうか。その友に自分
きも わ し くち だ のぞ
の気持ちが分かっていると知っていたとしても、それでもなお口に出したいと望むのではないでしょ
か。たしか かみ ころろ がんぼう ぞんじ いの しょうどう しぜん にんげん
確かに神はすべての心の願望をご存知ですが、祈りたいという衝動は自然なものであり、人間の
かみ たい あい しょう
神に対する愛から生じるものです。⁸

1. 次の文章を完成させましょう。

- _____ 祈りとは、ただ神への _____ ゆえの祈りです。神や _____ への恐れ、または _____ や _____ への望みのために祈るのではありません。
- 人間は _____ に落ちると、_____ を口にしないで _____。ましてや神を _____ になったとき、その _____ を _____ であることが、どれほど _____ なことでしょう…。
- 精神的な人間は神を _____ すること以外に _____ はないのです。

2. 私たちはなぜ祈るのでしょうか。 _____

3. 「神を記憶する」という言葉はどのような意味でしょうか。 _____

4. 誰かを愛する人の最も強い望みは何でしょう。 _____

5. 祈りたいという衝動は何から生じるのでしょうか。 _____

セクション 4

以下の祈りの句を読み、設問について考えてみましょう。

バハオラの示された祈りの中にこうあります。

…私のこの祈りをして、あなたの美から私をさえぎる諸々の暗幕を焼き尽くす 炎となし、あなたの御前の大海へ私を導く光となし給え。⁹

その同じ祈りの中で、私たちは神にお願いします。

おお主よ、私の祈りをして生命の泉となし給え。そしてあなたの御主権の続く限り、私がこの泉により生き、あなたの諸々の世を通じてあなたについて述べるすることができますようなし給え。¹⁰

1. 祈りはどういう意味で炎に例えられますか。それは何を焼き尽くしますか。 _____

2. 私たちを神からさえぎる暗幕にはどのようなものがありますか。 _____

3. 祈りは光のようになりますか。それは私たちをどこに導きますか。 _____

4. 祈りは生命の泉のようになりますか。それは私たちの魂に何を与えますか。 _____

セクション 5

以下のアブドル・バハの言葉を読んで、設問について考えてみましょう。

存在の世界で、祈りほど甘美なものはありません。人間は祈っている状態で生活すべきです。最も祝福されている状態は、祈りや嘆願をしている状態です。祈りとは神との対話です。最高の達成や最も甘美な状態とは、神と対話する状態に他なりません。祈りにより、精神性が創り出され、思慮深

てんかい かんじょう う おうこく あら みりよく う だ たか ちせい かんじょう う
さと天界の感情が生まれ、「王国」の新たな魅力が生み出され、より高い知性からなる感情が生まれ
ます。¹¹

1. 存在の世界で最も甘美なものは何でしょう。 _____

2. 「祈っている状態」とは、どういう意味ですか。 _____

3. 祈りによって培われる属性をいくつか挙げましょう。 _____

4. これまでの数セクションで学んだ引用文を振り返り、祈りの性格について文章を5つ書きましょう
 - 祈りは、 _____
 - 祈りは、 _____
 - 祈りは、 _____
 - 祈りは、 _____
 - 祈りは、 _____

セクション 6

以下のバハオラの言葉を読み、質問に答え、熟考しましょう。

わが しもべ なんじ さず かみ せいく かみ ちか つか ひとびと とな とな
おお我がが僕よ、汝に授けられた神の聖句を、神のおそば近く仕える人々が唱えるように唱えよ。
なんじ いの しら うらわ なんじじしん たまい ひ ひとびと ころ ひ よ
されば、汝の祈りの調べの麗しさは汝自身の魂に火をともし、また、すべての人々の心を引き寄
せるであろう。何人であれ自室にて神の啓示し給う聖句を暗唱するならば、その人の口をもれる言葉
ほうこう ぜんのう かみ ひろ よ ひろ ころただ ひとびと むね かんどう
の芳香は、全能なる神の御使いたちにより、広く世に広められ、すべての心正しい人々の胸を感動
う ふる さいしょ さよう き いの たま おんちよう こうりよく
に打ち震わせるであろう。たとえ最初はその作用に気づかずとも、祈るものに賜わる恩寵の効力は、
そうばんかなら たまい えいきょう およ かみ けいじ しんぴ いらよく えいち みなもと
早晚必ずその魂に影響を及ぼすであろう。このように神の啓示の神秘は、威力と英知の源であ
かみ みこころ さだ
る神の御心により定められたのである。¹²

1. 「唱える」とはどういう意味でしょう。 _____

2. 神の聖句をどのように唱えるべきですか。_____
- _____
3. 「暗唱する」とはどういう意味ですか。_____
- _____
4. 「広められ」とはどういう意味ですか。_____
- _____
5. 私たちの祈りの調べの麗しさは、自分の魂にどのような影響を及ぼしますか。_____
- _____
6. 私たちの祈りの調べの麗しさは、他の人々の心にどのような影響を及ぼしますか。_____
- _____

セクション 7

以下のバハオラの祈りから引用した二つの文を暗記してみましょう。

かみ かみ いだ のぞ おこな む たま てん ち つつ
 おお神よ、わが神よ。私の抱く望みや 行いには御目を向け給わず、天と地をあまねく包み込むあ
 みこころ たま ぜんじんるい しゅ さいだいめい ちか
 なたの御心のみをみそなわせ給え。おお全人類の主よ、あなたの最大名にかけて誓います。私は、
 のぞ たま のぞ あい たま あい
 あなたの望み給うことのみを望み、あなたの愛し給うもののみを愛します。¹³

ちか つか もの さんび てんじょう のぼ
 あなたは、あなたのおそば近く仕える者らの賛美も、あなたの御前の天上に昇ることができぬほど
 こうえん みずか ささ もの こころ とり けつ もん みとびら い
 高遠におわします。また、自らをあなたに捧げる者らの心の鳥も、決してあなたの門の御扉に行き
 つ ぞくせい こ せいべつ めいしょう こ しんせい
 着くことはできません。あなたはすべての属性を超えて聖別され、すべての名称を超えて神聖にまし
 しょうげん ほか かみ もっと すうこう えいこう
 ますことを証言いたします。あなたの他に神はいまさず、あなたは最も崇高なる御方におわし、栄光
 み たま
 に満ち給う御方にまします。¹⁴

セクション 8

以下のアブドル・バハの言葉を読んで、学びましょう。

かみ つか かみ いの じよりよく もと かみ えんじょ こんがん たんがん
 神に仕えるものは、神に祈り、助力を求め、神の援助を懇願し嘆願することがふさわしい。それは
 れいぞく ち い てきせつ ふ ま しゅ かんぜん ち え そ じぶん のぞ
 隷属という地位に適切な振る舞いであり、主はその完全な知恵に沿ってご自分のお望みのままに
 さだ たま
 定め給う。¹⁵

アブドル・バハは、このような説明もしておられます。

精神には影響力があり、祈りには精神的な効果があります。ですから、私たちは「おお神よ、この病人を癒したまえ！」と祈ります。神はそれに応えられるかも知れません。誰が祈るかは問題ではありません。神は、その祈りが切実であれば、どの僕の祈りにも応えられるでしょう。神の慈悲は広大で限りがありません。神は全ての僕の祈りに応えられます。この植物の祈りにも応えられます。「おお神よ、雨を降らせたまえ！」とこの植物は潜在的に祈ります。神はそれに応えられ、そしてこの植物は成長します。神は誰にでも応えられます。¹⁶

祈りの中で、日々生きるために必要なものが与えられるよう神にお願いするのは自然なことです。自分の、また愛する人の健康を願うこともあるでしょう。家族の精神的・物質的發展、そして導きを求めて祈ることもあるでしょう。奉仕の道で強さ・信念・確証を祈ることもあるでしょう。しかし神に祈るとき、私たちは自分の意思を神の御心に沿わせることが人生の目的であるということを思い起こす必要があります。神のご意志が行われ、それに従うことができるよう祈りましょう。以下のアブドル・バハの言葉は、あなたの喜びと確信の源となるでしょう。

おお神に面を向けている者よ！栄光に満ち給う御方の領土のみに目を開き、その他一切のものに目を閉じよ。望むことは何であれ、神のみに懇願し、求めるものは何であれ神のみに求めよ。神は一目で何万もの望みを叶え、一目で何万もの不治の病を癒し給う。一度のうなずきですべての傷に軟膏を塗り、一瞥をもって悲しみにしばられた心を解放し給う。神は望むままになし給い、我らには抵抗する術があろうか。神はご自身の意志を実行し、ご自分が好むままに命じ給う。ならば、素直に頭を垂れ、慈悲に満ち溢れる主に信頼を置くが最善なり。¹⁷

セクション 9

これまでに学んできたことはすべて、祈りの中で神に向き合うことは精神的な生活に不可欠であることを示しています。朝、目覚めるとすぐに、また夜、寝る前に祈るのは、甘美なことです。毎日どのくらい祈るか、また幾つの祈りを唱えるかは、精神的渇きや必要性によります。どのような状況でも、バハオラ、バブ、及びアブドル・バハによって著された、たくさんの祈りの中から自由に選んでください。加えて、バハオラは日々の必須の祈りを三つ啓示されました。ショーギ・エフェンディは述べています。

日々の必須の祈りは三つあります。一番短いものは一節からなるもので、24時間に一回、昼に唱えるべきものです。「神はご自身の他に神なきことを証言し給う」で始まる中位の祈りは、一日に

さんかい あさ ひる ばん とな いの とくてい どうさ しせい ともな みつ もっと
三回、朝・昼・晩に唱えるべきものです。この祈りは特定の動作や姿勢を伴います。三つのうち最も
せいこう なが いの じかん いかい す とき とな
精巧な長い祈りは、24時間に一回、好きな時に唱えることができます。

しんじゃ みつ いの まった じゆう ひと えら でき まいにちひと とな
信者はこれらの三つの祈りから全く自由に一つを選ぶことができますが、毎日一つを唱える
ぎむ えら いの とくてい し じ ばあい したが
義務があります。そして、選んだ祈りに特定の指示がついている場合は、それに従わなければなりません。¹⁸

ショーギ・エフエンディは続けています：

ち ゆ いの しょかん とくべつ いの ひび ひつす いの どうよう
「治癒の祈り」や「アーマドへの書簡」などいくつかの特別な祈りは、日々の必須の祈りと同様、バ
とくべつ ちから い み さず いの
ハオラにより、特別の力と意味を授けられています。したがって、これらの祈りは、そのようなものとし
ぜったいてきしんこう かくしん とな しんじゃ かみ みつせつ まじ
て受け入れ、絶対的信仰と確信をもって、唱えるべきです。それにより、信者らは、神とより密接に交
かみ ほう おきて いったいゆん つよ
わることができ、神の法や掟との一体感を強めることでしよう。¹⁹

バハオラの示されたこれら三つの必須の祈りは各自で個々に唱えます。日々の必須の祈りを一定の儀式に沿ってグループで唱えるという集団礼拝の類いは、バハイ信教にはありません。バハイの法で決まっている集団礼拝の祈りは、故人のための祈りだけです。これは、埋葬の前に参列者の内の一人が唱え、他の人は静かに立って聞きます。

1. 「必須」という言葉はどんな意味ですか。 _____

2. バハオラは日々の必須の祈りを幾つ啓示されましたか。 _____

3. 日々の必須の祈りは毎日三つとも唱えるべきですか。 _____
4. 長い必須の祈りを選んだ場合、一日に何回唱えるべきですか。 _____
5. 中位の必須の祈りの場合は何回唱えますか。 _____
6. 短い必須の祈りの場合は何回ですか。 _____
7. バハオラによって特別の効力を付与された祈りをいくつか挙げましょう。 _____

8. 短い必須の祈りを暗記しましょう。

かみさま つく たま し すうはい
神様、あなたが私を創り給いましたのは、あなたを知り、あなたを崇拝するためでありますことを
しょうげん いま むりよく おお まず
証言いたします。今こそ私の無力なことと、あなたの御力の大きいなることを、また私の貧しさと、あなた
おんゆた しょうげん
の御豊かさとを証言いたします。

ほか かみ きなん なか じりき ぞんざい たま
あなたの他に神はいまさず、あなたは危難の中の御救いにおわし、ご自力にて存在し給う御方に
まします。²⁰

9. この祈りで私たちは何を証言しますか。 _____

セクション 10

必須の祈りの法に従うことから祝福を受け取り、その他の祈りを個人的に唱えることから栄養を得ることが
できますが、加えて、集まりで唱えられるお祈りを聞くときも、その集まりが大きなものであれ小さなもので
あれ、私たちの魂は高揚することを覚えておきましょう。バハオラは述べられました。

なんじら さいこう よろこ ゆうじょう とも つど じ ひぶか しゅ しめ く あんしやう
汝等、最高の喜びと友情をもって共に集い、慈悲深き主の示された句を暗唱せよ。そうすること
しん ちしき とびら なんじ うち ぞんざい ひら なんじ たまい かつこ ころ かがや
によって、真の知識への扉が汝の内なる存在に開かれ、そして、汝の魂は確固とし、心は輝
よろこ み
かしい喜びに満たされよう。²¹

地域の共同体の中で神と対話する祈りの集いは、世界中で何千という単位で増え続けています。万国
正義院は述べています。

いの つど だれ さんか てんかい かお か いの あま けいけん そうぞうてき
祈りの集いは誰もが参加できるもので、それは天界の香りを嗅ぎ、祈りの甘さを経験し、創造的な
ことば じゅっこう せいしん つばさ ま あ ゆいいつあい たいわ ば ば
言葉について熟考し、精神の翼で舞い上がり、唯一愛されし御方と対話する場です。このような場
せいしんてき こうよう かいわ しぜん お ひと ころ みやこ かいほう とく
で精神的に高揚する会話が自然に起こり、それにより「人の心の都」が開放されますが、特にその
かいわ なか ゆうじょう れんたいかん ひ お
会話の中で、友情や連帯感が引き起こされます。²²

祈りたいと思った時は、まず日常のことを頭から消し去るために、しばらく静かに過ごします。祈りの間
は、神に意識を集中させます。祈り終えた後も、急に他のことに取り掛かるのではなく、少し静寂を保ちま
す。集まりで他の人が唱える祈りを聞くときも同様です。そのような時は、自分が唱えているかのように祈
りを唱える姿勢を保ち、祈りの言葉に集中します。

1. 神の句を唱えるとき、どのような気持ちを持って集うべきでしょうか。 _____

2. 神の句を唱えるために集うことによりどのような効果がありますか。 _____

3. 祈りの会は誰もが：

- _____、

- _____、

- _____、

- _____、

- _____、

- _____。

4. 祈りの集いで何が引き起こされますか。 _____

5. 祈りの集いで自然に起こる精神的に高揚させられた会話をもたらす効果はどのようなものですか。

6. 一人の時や集いで、祈りに際してとるべき敬虔^{けいけん}な態度を書きましょう。 _____

セクション 11

この教材の第1章は、毎日聖典からの句を読み、その意味を深く考える習慣に焦点を置いています。第2章では祈りの意味について考え、その結果、日々祈る習慣の大切さを学びました。特にセクション10では共同体での礼拝の重要性に着目しました。これまでに学んだことで、必要に応じてあなたが奉仕の道における最初の活動に取り掛かる準備が整いました。それは、祈りの集いを主催するということです。

その最初のステップとして、いくつかの祈りを覚えて、それを他の人と共有する機会を持ってみましょう。同時に、あなたの地域で少なくとも一つの、祈りの集いに積極的に関わることもできます。そのうちに、自分で友達や家族、近所の方に声をかけ、祈りと親睦のために定期的に祈りの会を開催するようになるかもしれません。こうした祈りの集いを、このコースの参加者同士で、こうした祈りの集いを始めることもよくあります。

祈りの集いには、決まったやり方があるわけではありません。しかし、次のことは確かです。祈りの集いは、祈りが唱えられ、聖典からの句が読まれ、精神的な高揚を促す会話がされる、友情にあふれる集まりです。そして、精神的なたたずまいの中で行われます。祈りの集いを主催すると想定して、以下のそれぞれの項目について簡単にアイデアを出してみましょう。

暖かい、心のもった招待をする

歓迎の雰囲気を作る

おごそ
厳かな雰囲気を保つ

喜びにあふれるしんぼく親睦を促す

精神的に高揚する会話を促す

参照文献

1. バハオラ、『落穂集』43, 4 段落
2. バハオラ、 in *Trustworthiness: A Compilation of Extracts from the Bahá'í Writings*, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice (London: Bahá'í Publishing Trust, 1987), no. 21, p. 5.
3. バハオラ、 *The Call of the Divine Beloved: Selected Mystical Works of Bahá'u'lláh* (Haifa: Bahá'í World Centre, 2018), no. 2.43, p. 31.
4. アブドル・バハ、 From a talk given on 5 May 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012), p. 127.
5. バハオラ、『かくされたる言葉』アラビア編 13
6. ショーギ・エフエンディ、“A Compilation of Extracts from the Writings of Bahá'u'lláh, the Báb, and 'Abdu'l-Bah and the Letters of Shoghi Effendi and the Universal House of Justice, compiled by the Research Department of the Universal House of Justice”
7. アブドル・バハ、『バハオラと新時代』(J・E・エッセルモント博士著)にて引用
8. 同上
9. バハオラ、『バハイ祈りの書』(2015 年版)、p.313
10. 同上、p.316
11. アブドル・バハ、 cited in *Star of the West*, vol. 8, no. 4 (17 May 1917), p. 41.
12. バハオラ、『落穂集』136, 2 段落
13. バハオラ、『バハイ祈りの書』(2015 年版)、p.315
14. 同上、p.320
15. アブドル・バハ、 in *Prayer and Devotional Life*, no. 24, p. 7.
16. アブドル・バハ、 From a talk given by 'Abdu'l-Bahá on 5 August 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace*, p. 345.
17. アブドル・バハ、 *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 22.1, pp. 75-76.
18. ショーギ・エフエンディ、 From a letter dated 10 January 1936 written on behalf of Shoghi Effendi, published in *Prayer and Devotional Life*, no. 61, p. 25.
19. ショーギ・エフエンディ、『バハイ祈りの書』(2015 年版)、p.326
20. バハオラ、『バハイ祈りの書』(2015 年版)、p.307
21. バハオラ、 in *Prayer and Devotional Life*, no. 68, p. 29.
22. 万国正義院、2015 年 12 月 29 日付けメッセージ



第3章

生と死

目的: 人生はこの世の^{へんせん}変遷や出来事だけで構成されるのではなく、
むしろその真の意義は魂の進歩にあるということを理解する。

セクション 1

人間の魂は、物質や自然の世界より、遥かに高められた存在です。ある講演で、アブドル・バハは以下のように述べておられます。

こうした肉体は原子で構成されています。これらの原子が分離しはじめると分解作用が起り、いわゆる死が到来します。…

魂は違います。魂は元素の結合体ではなく、原子で構成されているのではありません。魂は一つの不可分のもので、したがってそれは不滅です。それは完全に物質的創造物の次元の外にあり、永劫不滅です。¹

1. 「構成される」とはどういう意味ですか。 _____
2. 人間の魂は肉体と同じように、様々な元素で構成されているのですか。 _____
3. 人間の魂は物質的な存在ですか。 _____

セクション 2

守護者の代理によって書かれた手紙には、「人間の魂は受胎時に生じる」²と書かれています。万国正義院は「受胎」の意味について寄せられた質問に答えて次のように述べておられます。

バハイの聖なる書の中には「受胎」と呼ばれる出来事の生物学的な意味での瞬間やその性質の明確な定義は見つかっていません。同じ用語の医学的な文脈での使われ方も明確ではないようです。実際のところ、受胎とは受精と同時に起こるという説もあり、また、受精卵が着床する瞬間、つまり妊娠の開始時に起こるという説もあります。よって、魂が物質的な存在といつ結合するのかを知ることは不可能であるかもしれません。このような質問は、精神界の神秘と魂そのものの性質に関連しているため、人間の思考や調査では答えることができないかもしれません。³

1. 人間の魂はいつ生じますか。 _____
2. 「受胎」という用語は明確な生物学的瞬間を指すのでしょうか。 _____

セクション 3

魂と肉体の関係は物質的なものではありません。魂は肉体に入ったりそこから出て行ったりはしないし、物質的空間を占拠したりするのでもありません。魂と肉体のつながりは、光とそれを反映する鏡に似ています。鏡に映っている光は鏡の中にあるものではありません。同様に、魂は肉体の中にあるではありません。アブドル・バハは以下のように述べておられます。

理性的魂、つまり人間の精神は肉体に内在することによって存在するものではありません。すなわち、精神は肉体に入るのではないのです。なぜなら、内在すること、中に入ることは肉体の特徴であり、理性的魂はそれを超えた次元で聖別されているからです。魂はそもそも肉体に入ったのではないからこそ、肉体から去るとき他の居場所を必要としません。いや、精神と肉体のつながりは、ランプと鏡の関係と似ています。鏡が磨き上げられ、完璧であれば、ランプの光は鏡の中に現れるでしょう。一方、鏡が壊れたり、ほこりだらけであったりすれば光は隠されたままでしょう。⁴

1. 次の文を完成させましょう。

- 理性的魂、つまり_____は、肉体に内在することによって存在するものではありません。すなわち、精神は肉体に_____のではないのです。
- _____、つまり人間の精神は肉体に内在することによって存在するものではありません。なぜなら、内在すること、中に入ることは_____であり、理性的魂は_____からです。
- 魂はそもそも肉体に_____ないからこそ、肉体から去るとき_____を必要としません。
- 精神と肉体のつながりは、_____の関係と似ています。
- 鏡が磨き上げられ、完璧であれば、_____は鏡の中に現れるでしょう。
- 鏡が壊れたりほこりだらけであったりすれば、_____。

2. これまで学んだことをもとに、以下の文は正しいか否か考えましょう。

- ___ 魂は物質的世界に属さない。
- ___ 魂は肉体の中にある。
- ___ 肉体は魂の所有者である。
- ___ 魂は不死である。
- ___ 魂が胚と結合した際に個人が存在し始める。
- ___ 生命は個人がこの世に生まれ出た時、始まる。
- ___ 個人の肉体的存在は死後も続く。
- ___ 人生は毎日の生活で起こることによって構成される。

3. 光と鏡の^{ひゆ}比喩を使って、魂と肉体の関係を説明しましょう。

セクション 4

人間を共に構成する魂と肉体の間には、特別の関係があります。この関係はこの世だけのものです。この関係が終わると、それぞれは元の世界に戻ります。すなわち、肉体は塵の世界へ戻り、魂は神の諸々の精神界へ戻り、引き続き進歩します。アブドル・バハは次のように述べておられます。

人間の^{にんげん}精神には^{せいしん}始めはあるが、^{はじ}終わりは^おない。それは^{えいえん}永遠に^{つづ}続く。⁵

また、ある講話の中でアブドル・バハは次のように解説しておられます。

^{せいしん}精神は^{にくたい}肉体を必要としませんが、^{にくたい}肉体は^{せいしん}精神を必要とし、^{にくたい}それがなければ^い肉体は生きることができないのです。^{たましい}魂は^{にくたい}肉体がなくても^い生きることができますが、^{にくたい}肉体は^{たましい}魂がなければ^し死にます。⁶

そして、守護者は次のように説明しています。

人間の^{にんげん}魂^{たましい}について：^{おし}バハイの^{にんげん}教えによると人間の^{たましい}魂^{はい}は^{けいせい}胚が形成されるとともに^{はじ}始まり、^{にくたい}肉体から^{はな}離れた^{あと}後^{かぞ}も^{そんざい}数えきれない^{だんかい}存在の^へ段階^{せいちよう}を経て^{つづ}成長を続ける。このように、その^{せいちよう}成長は無^{むげん}限である。⁷

1. 上記の引用文の内容をもとに、以下の質問に答えましょう。

- 肉体は魂を必要としますか。 _____
- 魂は肉体を必要としますか。 _____
- 私たちが死ぬとき、肉体と魂の関係はどうなりますか。 _____
- 死後、魂はどうなりますか。 _____
- 魂の成長はどれぐらい続きますか。 _____
- 生命はいつ終わりますか。 _____

2. 次のどれがこれまでのセクションで学んだ内容と一致するか判断しましょう。

- ___ 死は罰である。
- ___ 体と魂のつながりはこの世だけのものである。
- ___ 肉体は永遠に成長することができる。
- ___ 魂は永遠に成長する。
- ___ 死は生命の終わりである。
- ___ 私たちの肉体が蘇る審判の日がいずれ訪れる。
- ___ 死によって魂はもっと自由になる。
- ___ 生命は死で終わる。
- ___ 死は怖いものである。
- ___ 魂は食べ物や、衣服、休息、娯楽を必要とする。
- ___ 体が活力を使いきると魂は疲れる。
- ___ 魂は病気や体の弱さに影響されない。
- ___ 人間には死後も肉体的な欲求がある。

セクション 5

魂は物質的な存在のように場所を占拠したり、自然界の法に従ったりするのではないということを学んできました。魂は肉体を媒体として世界に影響を及ぼしますが、魂がその力を行使する方法はそれだけに止まりません。バハオラは次のように述べられました。

まことにわれは告ぐ。人間の魂はあらゆる出現や退却を超えて高められたものである。それは静止していながら飛翔する。それは動いていながら静止する。⁸

そして、アブドル・バハはこう教えておられます：

人間の精神力と理解力には二種類あることを知なさい。つまり、人間の精神は二つの異なる方法で働き、理解するのです。一つの方法は、身体的な諸器官によるものです。ですから人間の精神は目で見、耳で聞き、舌で語ります …

精神力の影響力と働きのもう一つの方法には、身体的な諸器官はいりません。⁹

1. 次の文を完成させましょう。

- a. 人間の魂はあらゆる _____ や _____ を超えて高められたものである。
- b. それは _____ ながら _____ する。
- c. それは _____ ながら _____ する。

2. 魂がこの世界で理解し、影響を及ぼす二つの方法を説明しましょう。

3. 身体的な諸器官のいらない、魂の影響や働きの例を挙げましょう。

セクション6

これまでの説明を念頭において、バハオラの書簡から引用された以下の文を読みましょう：

人間にんげんの魂たましいは肉体にくたいや心こころのあらゆる病やまいを超こえて崇高すうこうなるものであり、それらより独立どくりつした存在そんざいであることたましいを知れ。病人しに見られる虚弱びょうにんは、魂たましいと肉体にくたいの間あいだに介在かいざいする障害物しょうがいぶつによるものである。魂たましいそのものはいかなる肉体にくたいの病やまいにも影響えいきょうされない。ランプの光ひかりについて考かんがえてみよ。外部がいぶの物体ぶつたいはランプの光ひかりを遮断しゃだんするかも知れないが、光ひかりそのものは衰おとろえない力ちからで輝かがやきつづける。同様に、人間にんげんの肉体にくたいを苦しめるすべての疾病くるは、魂たましいがその固有こゆうの実力じつりよくと能力のうりよくを顕あらわすことを妨さまたげる障害物しょうがいぶつである。しかし、肉体にくたいを離はなれたあと、魂たましいは地上ちじょうのいかなる力ちからも及およばないほどの権勢けんせいと影響えいきょう力を発揮はつきする。すべての純粋じゆんすいで洗練せんれんされ、聖別せいべつされた魂たましいは途方とほうもない力ちからを付与ふよされ、非常ひじょうな喜びよろこびに喜きえつ悦するであろう。¹⁰

1. 人間の魂がいかに肉体や心のあらゆる病にも影響されないか、そして、魂が肉体を離れた後に何が明らかにされるかを自分の言葉で説明しましょう。_____

2. 肉体の死後、私たちは個性を維持するでしょうか？ _____

セクション 7

以下のバハオラの言葉を読んで、学びましょう。

さて、人間の魂とその死後の生存に関する質問について。魂は肉体より分離後、神の面前に到達するまで進歩しつづけるということを知れ。魂がやがて到達する状態は、年代と世紀のめぐりによっても、この世の変遷と偶然によっても変わることはない状態である。そして神の王国、神の主権、神の統治と威力がつづく限り魂も永続し、神の諸々のしるしや属性を顕わし、神の慈愛と恩恵を放射する。¹¹

1. 肉体的な死を迎えた後、魂はいつまで進歩し続けますか？ _____
2. 魂はどのような状態で神の面前に到達するための永遠の旅を続けるのでしょうか？ _____
3. そのような状態の魂が現す属性としるしをいくつか挙げましょう。 _____
4. ここまでに学んだことに基づいて、次の事は正しいかどうか判断しましょう。

- ___ 神の王国は永遠に続く。
- ___ 魂は神の属性を顕す能力を持つ。
- ___ 死者のために私たちが唱えるお祈りは、その死者たちの魂の進歩に影響を及ぼさない。
- ___ 魂は存在しなくなることはない。

セクション 8

バハオラは宣言しておられます。

このことを知得せよ。聴力あるすべての耳は、それが純粹で汚れのないものであれば、四方にとどろくつぎの聖句を語る声を常に聞くであろう。「まことに、われわれは神に属し、神のもとへと帰らん」。肉体の死と、人間の帰還に係わる神秘は明かされておらず、それは未だ解説されないままである。…確信を得た信者に対し、死は生命そのものの聖杯を提供する。死は喜びを与え、歓喜を運ぶ。そして、死は永遠の生命の賜物を付与する。

ゆいいつしんじつ かみ にんしき ちじょう せいかつ かじつ かみ えいこう こうえん かじつ
唯一真実の神を認識することこそが地上での生活の果実である。神の栄光は高遠なり。この果実を
 あじ し ご せい じよじゆつ え ちしき もろもろ
味わったものの死後の生については、それはわれが叙述し得ないほどのものである。その知識は諸々
 よ しゆ かみ
の世の主におわす神のみにある。¹²

しこう もの こ し なんじ よろこ ししゃ なんじ し かな
おお至高なる者の子よ！ われ死を汝への喜びの使者とした。汝いかなれば死を悲しむや、
 なんじ て ひかり つく なにゆえなんじ ひかり じしん おお
われ汝を照らすために光を作った。何故汝その光から自身を覆うや。¹³

1. 次のうち正しいのはどれでしょう？

- ___ 人間の魂は神から来て、神のもとへ帰る。
- ___ 死後の生についてのすべての知識は神と共にある。
- ___ 確信を得た信者にとって死は生である。
- ___ 死は歓喜を運ぶ。
- ___ 誰もが死の神秘を知っている。
- ___ 私たちは人生の恵みを大切にすべきだが、死を恐れるべきではない。死は喜びの使者だから。
- ___ 死後の生について知ることは重要ではない。

2. これまでのセクションで学んできたことを念頭に、生、死、肉体、魂について短い文を書いてみましょう。

セクション 9

アブドル・バハは説明しておられます。

人間は、その生命の始めの頃、子宮という世界の中でこの世に進むために必要な能力と真価を
発達させました。この世に必要な力は子宮の世界で得たのです。この世で目を必要としたので、
子宮の世界で得ました。この世で耳が必要であったので、そこで得ました。この世で欠くことのできな
い様々な能力は子宮の世界で得たのです。子宮の世界でこの世のための準備をし、この世に生まれ
てみると、必要な能力がすべて身につけており、この人生に必要なすべての手足と臓器をその世で
手に入れていたということが分かりました。したがって、人間はこの世で次の世の準備をしなければな
りません。王国で必要なものをここで身につけて準備しなければならないのです。子宮の世界でこの世
に必要な様々な能力を身につけたように、王国の世界で必要になるもの、すなわち様々な天の力を
この世で習得しなければならないのです。¹⁴

1. 以下の文は正しいですか？

- この世に必要なすべての能力は子宮の世界で得る。
- 次の世のための準備をする必要はない。
- 王国の世界で必要なものはそこで身につけなければならない。
- この世における人生の目的は次の世での生に必要な能力を身につけることである。
- 真の生は死を迎え、聖なる王国に行くときに始まる。
- 真の生はこの世で始まり、死後も続く。

2. 人間が子宮の世界で与えられる能力にはどのようなものがありますか。_____

3. 死後の生のためにこの世で身につけなければならない能力をいくつか挙げましょう。_____

セクション 10

バハオラは宣言しておられます。

かみ にんげん おんちよう こうずい ていきよう たまう おんちよう わ まえ ひ い
神は人間に恩寵の洪水を提供し給う。この恩寵の分け前にあずかることこそがこの日を生きる
にんげん ぎ む みずか うつわ だいしよう かんが わ
人間の義務のすべてである。それゆえ、自らの器の大小を考えてはならない。あるものの分け
まえ て し ゆの たる み わ まえ
前は手のひらにのるほどであるかも知れない。また、湯飲みや樽を満たす分け前にあずかるものも
いよう。¹⁵

1. 上記の引用文をもとに、以下の質問に答えましょう。

a. この日を生きるすべての人の義務は? _____

b. あなたが神から受け取った恩恵をいくつか挙げましょう。 _____

c. 上記の引用文で「器」は何を指していますか? _____

d. どうして私たちが与えられた能力の「大小」を考えるべきではないのでしょうか? _____

e. 神の恩寵の分け前を受けとるのを妨げるものにはどのようなものがありますか? _____

2. 次のうち、正しいのはどれでしょう?

____ 私たちの能力の「大小」とは、頭の良さを指している。

____ 神に奉仕するためには自分の弱さを忘れ、神にすべての信頼を置かなければならない。

____ 神が私たちに授けられた能力をこの世で発達させなければ、次の世に入った時、私たちの魂は弱い状態であろう。

セクション 11

バハオラは述べておられます。

たましい とくしつ なんじ しつもん かくしん たましい かみ
魂の特質について汝はわれに質問した。まことにこのことを確信せよ。魂は神のしるしであり、
てんらい ほうせき たましい じつたい もっと がくしき りかい え しんぴ
天来の宝石である。魂の実体は最も学識あるものも理解し得ないものであり、その神秘はいかに

えいびん しんい はか し のぞ ぜんそうぞうぶつ なか そうぞうしゅ たくえつせい さいしよ せんげん
 鋭敏な心意をもってしても計り知ることには望めない。全創造物の中で、創造主の卓越性を最初に宣言
 たましい かみ えいこう さいしよ みと かみ しんり あいちゃく かみ まえ さんび さいしよ
 するのは魂であり、神の栄光を最初に認め、神の真理に愛着し、神の前で賛美をもって最初にひ
 ふ たましい
 れ伏すものも魂である。¹⁶

1. 次の文を完成させましょう:

- 魂は神の_____である。
- _____である魂の_____は最も学識あるものも理解し得ないものであり、その_____はいかに鋭敏な心意をもってしても_____は望めない。
- 魂は_____で、_____を最初に宣言するものである。
- 魂は_____を最初に認める。
- 魂は_____に最初に愛着する。
- 魂は神の前で賛美をもって最初に_____。

2. 次の中で正しいのはどれでしょう？

- ___ 「計り知る」とは、理解するという意味である。
- ___ すべての創造物の中で最初に神を認めるのは人間の脳である。
- ___ 「鋭敏」とは、鋭い^{するど}という意味である。
- ___ 学識あるものは魂の神秘を理解する。
- ___ 偉大な哲学者だけが神の卓越性を宣言することができる。
- ___ 魂について理解することはできないので、それについて考える必要はない。

セクション12

バハオラは宣言しておられます。

なんじ きょうりよく つばさ ぞんぶん は かんき み かんぜん じしん むげん てんくう
 まことに、汝らは強力な翼を存分に羽ばたかせ、歓喜に満ちた完全な自信をもって無限の天空
 ま とり ごと くうふく おぼ とり げかい みず ねんど もと ちじょう ひらい
 を舞う鳥の如くである。やがて空腹を覚える鳥は、下界の水と粘土を求めて地上に飛来する。しか
 よくぼう あみ あし と とり いぜん りょうど ま ちから うしな はね おお どり
 し、そこで欲望の網に足を捕られた鳥は、以前いた領土に舞いもどる力を失ってしまう。羽を覆う泥
 おも とり どり はら ちから てんかい じゅうにん とり いま ちり なか
 は重くのしかかり、鳥は泥を払う力をもたない。かつては天界の住人であった鳥も、今や塵の中に
 じゅうきよ もと し よくぼう ごうじょう
 住居を求めることを強いられるのである。したがって、おお、わがしもべらよ、むなしい欲望と強情の
 ねんど なんじ つばさ よご ねた にく ちり よご なんじ はね
 粘土で汝らの翼を汚してはならない。妬みや憎しみの塵の汚れを汝らの羽につけてはならない。
 しんせい ちしき てんくう ま けつ
 これにしたがえば、神聖なるわが知識の天空に舞うことをさまたげられることは決してない。¹⁷

1. 次の文を完成させましょう。

- a. バハオラがこの引用文で述べておられる鳥とは_____である。
- b. この鳥は_____の住人である。
- c. もしその鳥の羽が汚れてしまったら_____に住むことを強いられる。

2. 次の質問に答えましょう。

- a. 魂の「羽」はどのように「汚れてしまう」のですか。_____

- b. 魂の翼にのしかかる「下界の水と粘土」にはどのようなものがありますか。_____

- c. 私たちが神の知識の天空に舞うのを妨げるものにはどのようなものがありますか。_____

- d. 魂はどうして天界の住居をこの世の塵と交換するのでしょうか。_____

3. 次の文は正しいですか。

- ___ 世俗的な執着は私たちの精神的な成長を妨げる。
- ___ 私たちのわがままやむなしい欲望は私たちが神の知識の天空を舞うのを妨げる。
- ___ 妬みと憎しみは人間の自然な特性であり、魂の重荷にはならない。
- ___ この世のものを超脱することによって、無限の天空を舞うのを妨げる重荷を取り除くことができる。
- ___ 魂の住居はこの世にある。

セクション13

バハオラは述べておられます。

神はこの世とそこに生きて動くすべてのものを創造した。つぎに、神は何ものにも束縛されぬ
御主権と御心により、人間にある特有の能力を与えた。それは神を知り、神を愛する能力である。こ

のうりよく ふ よ しんらばんしょう そうぞう どうき そんざい き そ もくてき
 の能力の付与こそは森羅万象の創造の動機であり、その存在の基礎をなす目的である…。どの
 そうぞうぶつ たい かみ ごじぶん なか ひと な ひかり そそ ごじぶん ぞくせい なか ひと
 創造物に対しても、神は御自分の御名の中の一つの名の光を注ぎ、御自分の属性の中の一つの
 ぞくせい えいこう ふ よ そうぞうぶつ ほんしつ ないおう おき にんげん たい
 属性の栄光を付与し、それらは創造物の本質の内奥にそれぞれ納められている。しかし、人間に対
 かみ ごじぶん な ぞくせい ひかり しゅうちゅう にんげん ほんしつ かみごじしん うつ かがみ
 しては、神は御自分のすべての名と属性の光を集中し、人間の本質をして神御自身を映す鏡と
 ぜんそうぞうぶつ なか にんげん いたい おんけい ふきゅう けいたく えら
 した。全創造物の中で人間のみがこの偉大な恩恵と不朽の恵沢のために選ばれたのである。¹⁸

1. 次の文を完成させましょう。

- a. 神は人間にある特有の能力を授けられた。それは_____である。
- b. _____創造物に対しても、神は_____の光を注ぎ、_____
 _____の栄光を付与された。
- c. 人間に対しては、神は_____の光を集中し、人間の本質をして
 _____鏡とされた。

2. 次の質問に答えましょう。

- a. 神の属性をいくつか挙げることができますか。 _____

- b. 人間の魂が反映することのできる神の属性にはどのようなものがありますか。 _____

- c. それらの属性はどのように現わされますか。 _____

- d. 人間はどのような特別な恩恵のために選ばれたのですか。 _____

3. 次の中で正しいのはどれですか？

- _____ 人間は他の創造物とやら変わりはない。
- _____ 神を知り、愛する能力はすべての創造の動機であり、その存在の基礎をなす目的である。
- _____ すべての創造物は神に付与された属性の一つをそれぞれの内奥に収めている。
- _____ 人間の魂は神の属性のすべてを反映することができる。

セクション14

バハオラはこう教えておられます。

かみ おんけい ひる ほし せい きょうどう げんせん にんげん ほんしつ ふよ
神の恩恵の昼の星と聖なる教導の源泉によって人間の本质に付与されたこのエネルギーは、
せんざいでき のうりよく にんげん うち ひ ろうそく なか ほのお かく
潜在的に、能力として人間の内に秘められているのである。それはちょうど蠟燭の中に 炎 が隠され、
なか ひかり せんざい どうよう せぞく よくぼう こうき おお かく
ランプの中に 光 が潜在するのと同様である。世俗の欲望はこのエネルギーの光輝を覆い隠してしま
う。それはちょうど太陽の 光 が、鏡 を覆う塵やごみの下に隠されてしまうのと同様である。蠟燭もラン
プも外部の助けなしに 自らに点火することは不可能である。鏡 もまたそれを覆う塵を 自ら取り除く
が いぶ たす みずか てんか ふかのう かがみ おお ちり みずか と のぞ
ことはできない。ランプは点火されるまで決して燃えることはなく、鏡 もその表面の塵を取り除くまで
たいよう すがた うつ ひかり えいこう ほんえい めいはく じじつ
は太陽の 姿 を映し、その 光 と栄光を反映することはできない。これらは明白な事実である。¹⁹

1. 「潜在」という言葉の意味は何でしょう。 _____
2. 人間の魂に潜在的に秘められている能力をいくつか挙げましょう。 _____

3. ランプはどのような可能性を持っていますか。 _____
4. 鏡はどのような可能性を持っていますか。 _____
5. ランプが光を放つには、何をしなければなりませんか。 _____

6. 鏡が光を反映できるようにするため、何をしなければならないでしょう。 _____

7. ランプや鏡はその可能性を自力で発揮させることができますか。 _____
8. ランプや鏡の例は、人間の魂の状態をどのように例えていますか。 _____

9. 人間の魂の可能性を発揮させるのは誰ですか。 _____

セクション15

バハオラは述べておられます。

いにしへの存在者の知識に通ずる扉は人間の面前で閉ざされており、未来永劫に閉ざされつづけるのである。いかなる人間の理解力をもってしても神の聖なる宮廷に接近することはできない。しかし、神はその慈悲のしるしとして、またその慈愛の証拠として、人類に聖なる教導の昼の星を遣わし、神の一体性の象徴を顕わすのである。そして、これらの聖別された存在を知ることは、神御自身を知ることと同じであると神は定めたのである。彼らを認めるものは、神を認めるものである。彼らの呼びかけに応えるものは、神の声に応えるものである。彼らの啓示の真実を証言するものは、神そのものの真実を証言するものである。彼らに顔をそむけるものは、神に顔をそむけるものである。彼らを信じないものは、神を信じないものである。彼らはみなこの世と天界を結ぶ神の道であり、天と地の諸々の王国に生きるすべてのものに対する神の真理の旗印である。彼らは人類に遣わされた神の顕示者であり、神の真理の証拠であり、神の栄光のしるしである。²⁰

1. 上の引用文を念頭に、次の質問に答えましょう。

- a. 私たちは直接神を知ることができますか。 _____
- b. では、どうすれば神を知ることができますか。 _____

- c. 「聖なる教導の昼の星」たちをいくつか挙げるすることができますか。 _____

- d. 神の顕示者の声に応えた人は、誰の声に応えたのでしょうか。 _____

- e. 神の顕示者の呼びかけを無視する時、私たちは誰から顔をそむけているのでしょうか。 _____

2. 次の文を完成させましょう。

- a. いにしへの存在者の知識に通ずる扉は _____、未来永劫に _____。
- b. いかなる人間の理解力をもってしても _____ に接近することはできない。
- c. 神は、 _____ のしるしとして、また _____ の証拠として顕示者を遣わされた。
- d. 神の顕示者の知識は _____ の知識と同一である。
- e. 神の顕示者を認めたものは _____ を認めたものである。
- f. 神の顕示者の呼びかけに応えるものは _____。

g. 顕示者はみな、_____ 神の道であり、_____

3. 次の中で正しいのはどれでしょう？

- ___ 私たちは、自分の努力だけで精神的に成長できる。
- ___ 私たちは神に知性を与えられ、それをもって十分に進歩できる。
- ___ 私たちは神の顕示者を認めることで精神的に進歩することができ、それ以上の努力は必要ない。
- ___ 私たちは神の顕示者を認め、その教えに沿って生きるよう努力することで精神的に進歩できる。
- ___ 私たちは神を直接知ることができる。
- ___ 人間は神とまったく同じようになることができる。
- ___ 神は人間の理解よりもはるかに高められた存在である。
- ___ 神の顕示者の言葉を聞くと、神の「声」を聞いているのである。

セクション16

バハオラはこう宣言しておられます。

神の預言者や使者たちは、人類を一直線の真理の道にみちびく目的のためにのみ遣わされたのである。彼らの啓示の根底にある目的は、人間が死に際して最高度の純粋さと、聖別された状態で、そして完全なる超絶をもって最も高遠なる御方の王座にのぼることができるように人類を教育することに²¹ある。

さらに別の文節で、こう述べておられます。

人間は、最高の神器である。しかしながら、適切な教育の欠如のために、人間は自己に内在するものを失ってしまっている。神の御口をもれる一言により、人間は生みだされた。つぎに発せられた一言により、人間は自らの教育の源泉を認識できるようみちびかれた。さらに発せられた一言により、人間の地位と運命は保障された。偉大なる存在者はこう語る。人間を、計り知れないほど高価な宝石に富む鉾山と見なせ。教育のみがその宝を放出させ、人類にその利益を与えることができる。神の聖なる意志の天より下された諸々の聖典が明らかにしたことについて瞑想するならば、その目指す目標は以下の通りであることを容易に認めることができよう。つまり、その目標とは「王国は神に属

ことば せり」の言葉のしるしがすべての心こころに刻まれ、聖なる恵みと、恩寵おんちようと、慈悲じひの光ひかりが全人類ぜんじんるいを取り巻くよう、全人類ぜんじんるいがあたかも一つの魂たましいのように見みなされることである。²²

1. 神の預言者たちは何のために遣わされたのでしょうか。_____
2. 彼らの啓示の根底にある目的は何ですか。_____
3. 「神器」とはどういう意味でしょう。_____
4. 適切な教育の欠如はどのような結果をもたらしますか。_____
5. 適切な教育によってのみもたらされるものは何ですか。_____
6. 人間の教育の「源泉」は何でしょう。_____
7. 私たちの運命は何ですか。_____
8. 教育によって放出される宝石にはどのようなものがありますか。_____
9. 聖典について瞑想するとき何を容易に認めますか。_____

セクション17

バハオラは述べておられます。

さらに汝なんじは、魂たましいが肉体より分離にくたいした後の状態ぶんりについてわれに質問あとした。まことにつぎのことを
確信かくしんせよ。神の道かみを歩みちんだ魂たましいは、必ず最愛かならなる者の栄光さいあいに戻ものり、引き寄せえいこうられるであろう。神の
正義せいぎにかけて言いう。そのような魂たましいはいかなるペンじよじゆつが叙述したすることも、いかなる舌したが述べることもでき

ないほどの地位に達するであろう。神の大業に忠実でありつづけ、神の道に揺るがず確固とした魂は、昇天後、全能者が創造し給うたあらゆる世界に利益を与えうるほどの力を所有する。²³

1. 次の文を完成させましょう。

- a. 神の道を歩んだ魂は、必ず_____。
- b. そのような魂は_____
_____地位に達するであろう。
- c. _____の_____に_____でありつづけ、_____に_____確固とした_____は、
_____後、_____あらゆる世界に_____ほどの
_____を所有する。

セクション18

バハオラは述べられました。

肉体を後にするとき、世の人々の虚ろな想像より聖別されている魂は幸いなり。そのような魂は、創造主の御心にしがって生き、動き、最も高遠なる楽園に入る。最も崇高なる館の住人なる天の侍女たちはその魂を取り巻き、神の預言者や神に選ばれし人々はその魂との交友を求め、その魂は彼らと自由に会話を交わし、諸々の世の主なる神の道において耐え忍ばねばならなかったことについて彼らに語るであろう。²⁴

道を求めるものは、罪深い人々をゆるし、彼らの地位の低さを決して軽蔑してはならない。なぜならば、誰も自分の最期を知るものはいないからである。罪深いものが、臨終の際に信仰の本質に到達し、不滅の盃を飲み干して天上の集合の方へと舞い上がっていったという例が、何としばしばあったことか。また、実に信心深かったものが、靈魂の昇天に際し、あまりもの変わりように地獄の火中に落ちてしまうということも何と度々あったことか。²⁵

1. 肉体から離れるとき、魂の状態はどうあるべきですか。_____

2. 虚ろな想像にはどのようなものがありますか。_____
- _____
- _____
3. 虚ろな想像から聖別されている魂は、死後どのような状態で生き、動きますか。
- _____
- _____
4. 誰がそのような魂と交友しますか。_____
- _____
5. そのような魂は神の予言者や神に選ばれしものと会話をすることができますか。_____
- _____
6. 私たちはいつ、どのように地上の人生が終わるかを前もって知っていますか。_____
7. 私たちに運命づけられた永遠の生命に達するために、今できることは何ですか。_____
- _____
- _____

セクション19

アブドル・バハは説明しておられます。

人間の精神は元素からなつたその形を捨てた後に永遠の命があるので、確かに、あらゆる存在物と同じく進歩することができます。ですから人は、故人の魂が進歩し、許しを得、神からのご好意や恩寵、恩恵を受けるものとなるよう祈ることができます。そのような理由でバハオラの祈りの中で、次の世に昇つた人のために神の寛容と許しが求められているのです。さらに言えば、人々がこの世において神を必要としているように、来世においてもまた神を必要とするでしょう。創造物は必要とする存在であり、神はこの世においても、来世においても、創造物に依存することはありません。²⁶

私たちはなぜ、故人の魂のために祈りをささげるべきなのでしょう。

セクション 20

アブドル・バハは述べておられます。

人間の魂がこのはかない塵の山から飛び立ち神の世界へ舞い上がるとき、ヴェールは外れ落ち、真実が明らかになり、以前は知らなかったすべてのことが明白になり、隠された真実を理解します。

子宮の世界での人間は、いかに耳は聞こえず、目は見えず、舌は語れなかったか、いかにすべての知覚をもたなかったかを考えてください。しかし、その暗闇の世界からひとたびこの光の世界に出てきたとたん、目は見えるようになり、耳は聞こえるようになり、舌は語れるようになりました。同じように、人間がこの死すべき場所から神の王国へと進むとき、精神界に生まれます。そして、認識の目が開き、魂の耳が聞こえるようになり、それまでまったく知らなかった真実が明白で明確になるでしょう。²⁷

1. 次の文を完成させましょう。

a. 人間の魂がこの世を去るとき、

- ヴェールは_____、
- 真実が_____、
- 以前は知らなかったすべてのことが_____、
- 隠された真実を_____。

b. _____の世界で私たちは、耳は_____、目は_____、舌は_____。

c. この世に生まれると、目は_____、耳は_____、舌は_____。

d. これと同じように、私たちが神の王国へと進むとき、私たちは_____に_____でしよう。

e. そして、_____の目が_____、_____の耳が_____、私たちがそれまでまったく知らなかった_____が_____で_____になるでしょう。

2. 次の中で正しいのはどれでしょう。

- ___ 子宮の世界にいた時、私たちはこの世について知っていた。
- ___ 死後の状態はこの世では私たちに隠されている真実である。
- ___ 死後、全く新しい視界が私たちの前に開かれる。
- ___ 私たちは、死後、再び生まれてこの世に戻る。

セクション 21

バハオラは述べておられます。

さて、人間の魂は肉体より分離後も、引きつづき互いに認識し合うか、という汝の質問について。深紅の箱船に入り、そこに定住するバハの人々の魂は、肉体より分離後も互いに親密に交わり、語り合うことを知れ。彼らは生活、希望、目的、努力のすべての面において非常に密接な係わりを持ち、あたかも一つの魂のようになるであろう。彼らこそはまことに博識であり、鋭い洞察力を持ち、理解力を授けられた人々である。すべてを知り、すべてに賢き者はこのように定めたのである。

神の箱船の住人であるバハの人々はみな、互いの置かれている状態と様子を充分認識し、親しさと友情の絆で結ばれている。しかし、この状態に達することは、各自の信仰と行いとに必然的にかかっている。同じ地位と等級にあるものは、互いの能力、性格、業績、真価などを充分に知っている。しかし、低い地位のものは、上級者の地位を正しく理解することも、真価を評価することもできない。各人は、汝の主よりその分け前を与えられよう。神のもとへと魂が飛び立つまで、常に顔を神に向け、神の愛の道を確固として歩むものは幸いなり。神こそは主権に満ち給う万物の主であり、最も力強く、常にゆるし給う御方、すべてに慈悲深き御方である。²⁸

1. 次の世では、この世で知っていた人々を認識できますか。 _____
2. 人々の魂は次の世でどの程度親密に交わるでしょう。 _____

3. 次の世で、魂の置かれる状況と様子は何によって決まるのでしょうか。 _____

4. 神の恩寵を受けられない人はいますか。 _____

セクション 22

バハオラは勧告しておられます。

おお、わがしもべらよ。この地上での日々において、神が汝らの望みと異なることを定め現わしたとしても、それを決して嘆いてはならない。何となれば、汝らを待ち受けるのは幸福と喜びにあふれ、天来の歓喜に満ちた日々である。このことは確かである。神聖にして精神的な光に満ちた数多

せかい なんじ あ いま よ よ すす なんじ
 くの**世界**が**汝**らに明かされよう。今の世に**いま**いるときも、また、つぎの世に進んでからも、**汝**らはこれら
せかい ていきょう おんけい きょうじゅ よろこ きょうゆう ささ おんちよう わ まえ
 の**世界**が**提供**する**恩恵**を**享受**し、その**喜び**を**共有**し、**すべて**を支えるその**恩寵**の**分け前**にあずか
かみ なんじ さだ うんめい なんじ せかい どうたつ
 ることができよう。これこそは**神**が**汝**らに**定め**た**運命**である。**汝**らはこれらの**世界**の**すべて**に**到達**で
うたが よち
 きよう。このことには**疑**う**余地**もない。²⁹

1. 次の中で正しいのはどれでしょう。

- 自分の望み通りにならないときは悲しむべきである。
- 良いことも悪いことも、すべては神によって定められた。
- 喜びにあふれる日々が私たちを待っている。
- 神聖にして精神的な光に満ちた数多くの世界を私たちは見るに違いない。
- この世においても、また次の世においても、神聖で精神的な光に満ちた世界の恩寵の分け前にあずかることは私たちの運命である。

2. なぜ、自分の望み通りにならないことがあっても悲しむべきでないのですか。_____

3. この文章で、バハオラは私たちにどのような約束をしておられますか。_____

セクション 23

この章で、皆さんは人生の意義について考えました。また、魂の性質、この世における人生の目的、精神的資質を発達させることが不可欠であること、そして、私たちに約束されている、輝かしく喜びに満ちた永遠の命についてたくさんのことを学びました。この本の第 2 章では、人生の二つの目的について話しました。自分の精神的・知的成長と、社会の変革への貢献です。ここでその概念に立ち返り、魂の成長について得た洞察をもとに、この目的の二つの側面に注意を払うことの重要性を再検討してみましょう。以下のテーマについて、あなたのグループで話し合うと、省察がより深まるのではないのでしょうか。

1. 精神的資質を発達させる
2. 神の法に従う
3. 人類の福利に貢献する
4. 奉仕の道を進む

参照文献

1. アブドル・バハ、『パリ講話集』
2. From a letter dated 1 April 1946 written on behalf of Shoghi Effendi, published in *Lights of Guidance: A Bahá'í Reference File* (New Delhi: Bahá'í Publishing Trust, 1988, 2010 printing), no. 1820, p. 537.
3. 万国正義院の代理による手紙 2016年7月28日
4. アブドル・バハ、『質疑応答集』 No.66.3
5. 同上 No.38.5
6. アブドル・バハ、『パリ講話集』
7. ショーギ・エフェンディの代理による手紙 1937年12月31日
8. バハオラ、『落穂集』 82、第8段落
9. アブドル・バハ、『質疑応答集』 No.61.1-2
10. バハオラ、『落穂集』 80、第2段落
11. 同上、81 第1段落
12. 同上、165 第1-3段落
13. バハオラ、『かくされたる言葉』 アラビア編 32
14. From a talk given on 6 July 1912, published in *The Promulgation of Universal Peace: Talks Delivered by 'Abdu'l-Bahá during His Visit to the United States and Canada in 1912* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2012), pp. 315-16. (authorized translation)
15. バハオラ、『落穂集』 5、第4段落
16. 同上、82、第1段落
17. 同上、153、第6段落
18. 同上、27、第2段落
19. 同上、27、第3段落
20. 同上、21、第1段落
21. 同上、81、第1段落
22. 同上、122、第1段落
23. 同上、82、第7段落
24. 同上、81、第1段落
25. 同上、125、第3段落
26. アブドル・バハ、『質疑応答集』 No.62.3
27. *Selections from the Writings of 'Abdu'l-Bahá* (Wilmette: Bahá'í Publishing, 2010, 2015 printing), no. 149.3-4, pp. 246-47.
28. バハオラ、『落穂集』 86、第1-2段落
29. 同上、153、第9段落

精神の生命を考える

Reflections on the Life of the Spirit

Book1

初版	1998年	7月9日	発行
第2版	1999年	7月9日	発行
第3版	2001年	7月9日	発行
第4版	2003年	5月29日	発行
第5版	2004年	3月21日	発行
第6版	2006年	11月26日	発行
第7版	2009年	2月26日	発行
第8版	2011年	5月29日	発行
第9版	2014年	11月12日	発行
第10版	2016年	2月26日	発行
第11版	2019年	11月28日	発行
第12版	2020年	11月25日	発行
第13版	2021年	11月27日	発行

発行者 トレーニング・インスティテュート
福岡県久留米市津福本町27
電話 0942-34-5813
Email bid_office@bahaijp.org

印刷 アトム印刷
福岡県大野城市緑ヶ丘3丁目15-2
電話 092-596-1297